

## 心のノートを活用した「規範意識を高める考え方」の構成

武豊町立武豊中学校 岩橋 雅高

### 1 はじめに

わたしは、平成 17 年度から 3 年間、ミャンマー連邦にある在外教育施設ヤンゴン日本人学校に勤務していた。そこで、ミャンマーの人たちに日本語を教えるボランティアをしていた折、実に規範意識が高いことに気が付いた。もちろん、国情の違いにより、衛生や環境問題に関わる規範意識は低く、日本人の考える規範意識との間に差があることは否めないが、集団や社会に関する規範意識は、とても高く、その行動に何度も感心させられた。



写真 1 日本語を学ぶ生徒たち

日本語の授業で席がいっぱいになっても、しっかりと奥に詰めて座れる場所を他の人のために

つくってあげる学生たち。満員のバスや電車では、外にはみ出るような危険な乗り方をする事も多い中、必ずお年寄り、幼い子、女性を安全な内側に座らせて、率先して外に立つ男性たち。お年寄りが通行量の多い道路を横断するときは、必ずそれを助けてあげる周りの人たち。こんな感心する光景をたくさん見てきた。

ミャンマーでは、普段の治安は良く、犯罪も日本に比べて非常に少ない。外務省「海外安全ホームページ安全の手引き」によると、「重要犯罪だけ見ても、ミャンマーは日本の 20 分の 1 程度（2006 年 10 月 1 日）」とある。日本ではほぼ毎日のように報道される重要犯罪が、ミャンマーでは 20 日に 1 回程度と考えると、その犯罪の少なさが分かる。

その要因となっているものは、何であろうか。以下、ミャンマーでの生活の中で感じ取った、その集団や社会に関する高い規範意識を生み出す要因と思われるものを 4 つ挙げる。

- ・小乗仏教の教えを守る敬虔な信者が多い

国民の 90% が仏教徒であり、その理念を守らなければいけないという考えが広く浸透している。これを守ることがステータスであり、自分の誇りだと考える人が多い。このことから、成長過程で教えられる考え方の基本に「仏教の教え」があり、周りにその見本となる大人がいるため、その教えをしっかりと守る考えが身に付くと考えられる。

この教えを守り、功德を積むという教えに基づく考え方が周りの人のことを考えることにつながり、集団や社会の規範意識を高めている一因になっているのではないだろうか。

- ・僧、師、親を尊敬する教え

自分を生かし、高めてくれる存在である「僧・師・親」には、礼儀を尽くし、敬うべき対象として

幼いころから教えられる。その「僧・師・親」が、主に子供たちに教えることは、「困っている人を助ける」「年少者をいたわる」「年長者を敬う」「子供をかわいがる」「いつも微笑んでいるとよいことが訪れる」「大声を出すことは心を乱すことで、みっともないこと」「毎日お祈りをする」など、社会生活にかかわる内容であり、実際に、家庭だけでなく地域で多くの大人がそれを子供たちに伝えている。

敬うべき対象者からの教えを幼いころから聞き、実践することで周囲に認められ、そうすることの良さを実感していく過程が集団や社会の規範意識の高さをつくり出しているように感じられる。

・教えに従うことで得られる「自己肯定感」が強い

ミャンマーの人たちに話を聞くと、仏教や「僧・師・親」に従っていれば、それは正しいことであるから、その報いとして自己実現できると確信している人が多いことに気付く。実際には、それだけでは夢は実現できないと思えることでも、真剣に信じて実践している。日本語教室のある生徒は、「日本へ行けるように、毎朝4時に起きて仏様にお祈りしています」と真剣な表情で話してくれた。貧富の格差が激しい国だが、貧しくても、裕福でも、教えを守っているという自信から確固たる「自己肯定感」をもち合わせていることを感じる。

・集団への所属意識が強い

大家族で狭い家に暮らす家族がほとんどで、子供たちは、いつも周りには誰かがいる環境の中で生活している。家族全員でお寺にお祈りに行ったり、朝晩の食事を一緒にしたりすることは当たり前である。地域の人たちは、全員顔見知りで、連帯感も強い。市場でも、同じ場所で商売をしている仲間という意識が強いようで、個人の利益を追求するのではなく、市場全体で協力して商売をし、客を助けることを大切にしている。



写真2 市場の様子

このように、人々は大勢の人と一緒に協力しながら暮らしているので、その人との関わりの中から、ルールを守ることの良さや協力することの意義を幼いころから学んでいるように思われる。

これらのことから学校での教育活動の中で応用できるものを考え、実践すれば、規範意識の向上につながるのではないだろうかと考え、日々の実践に取り組んでいる。

## 2 研究の目的

本研究は、規範意識を高めるために学級でできる活動を実践研究することを目的とする。前述の「ミャンマーにおける集団や社会の規範意識が高い要因」と思われる「自己肯定感・集団への所属意識」をより確かなものにするすることで、規範意識の向上を目指す。

## 3 研究の方法

本研究は、規範意識を高めるために大切な『自己肯定感』『集団への所属意識』の向上のために、心のノートを活用した道徳の授業や学級活動を実践する。日頃の様子、日記、アンケートなどから、その規範意識の変化を検証していく。

### (1) 学級の実態把握と実践の方向性

「自己肯定感」「集団への所属意識」と規範意識とのかかわりを探るアンケートを行い、その結果を基にして、何に焦点を絞って道徳の授業や特別活動を実践すれば、「自己肯定感」「集団への所属意識」が高められるかをとらえる。

### (2) 心のノートの活用

(1)の結果を基にして、どのように「心のノート」を活用していくか考え、その実践をする。「心のノート」は、その学級集団の状態に合わせて教育活動中の様々な場面で活用できるだけでなく、その目的に合わせて家庭でも活用できる資料である。また、3年間を通して活用できる「心のノート」は、自分の変化を見つめるのに適している。

### (3) 『自己肯定感』『集団への所属意識』向上のための学級経営

日々の学級活動の中に、「自己肯定感」「集団への所属意識」の向上を目的として日記指導を中心とした活動を取り入れる。

## 4 研究の内容

### (1) 学級の実態把握「『自己肯定感・集団への所属意識』と規範意識の関係を探るアンケート」

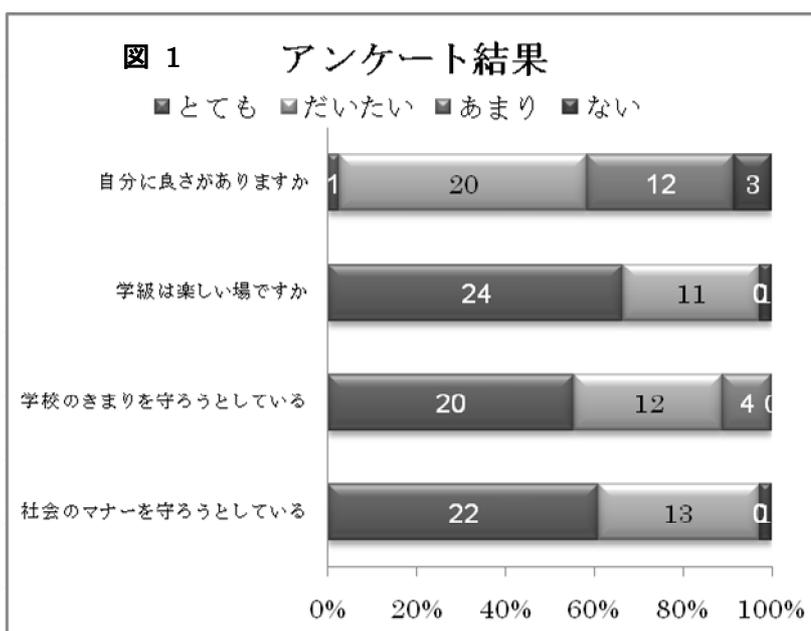
3年生生徒36人を対象に以下のようなアンケートを行った。

- ① あなたには、「良さ」がありますか。(選択肢)とても だいたい あまり ない  
・その良さは何ですか。(記述)
- ② 学級は、楽しい場ですか。(選択肢)とても だいたい あまり ない  
・その理由は何ですか。(記述)
- ③ 学校のきまりを守るよう努力していますか。(選択肢)とても だいたい あまり ない  
・その理由は何ですか。(記述)
- ④ 社会のマナー(交通ルール・割り込みをしないなど)を守るように努力していますか。  
(選択肢)とても だいたい あまり ない  
・その理由は何ですか。(記述)

このアンケートの結果は、**図1**のようになった。

自己肯定感についてみる①の質問については、「とても」と答えた極めて自己肯定感が高い生徒が1人であった。また、「あまり」「ない」と答えた自己肯定感の低い生徒が合計で15人おり、全体の41.7%の高い割合を示していた。全体的に見て、しっかりした自己肯定感をもった生徒があまりいないようである。

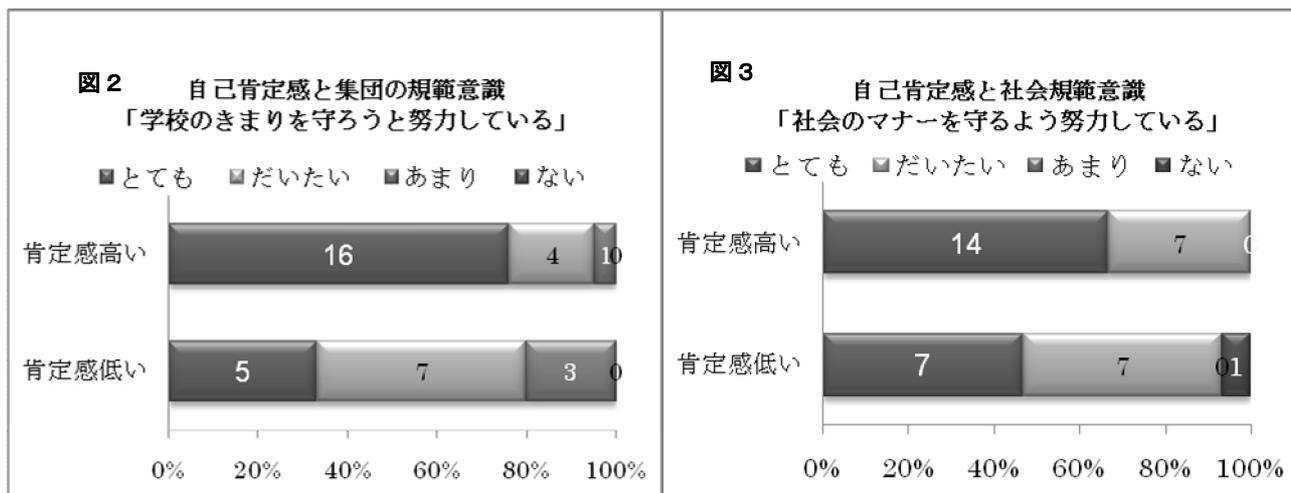
それに比べ、集団への所属意識についてみる②の質問については、学級を楽しい場と考える生徒は、「とても」「だいたい」合わ



せて 35 人おり、全体の 97.2%という高い割合を示していた。

「学校のきまりを守ろうとしている」生徒の割合と「社会のマナーを守ろうとしている」生徒の割合は、ほぼ同じと考えられるが、学校のきまりを守ろうとしない人数の方が多く、学校という場での規範意識の方がやや低いように思われる。

これを「自己肯定感」の高さと「学校のきまりを守ろうとする意識」や「社会のマナーを守ろうとする意識」の高さがどのような関係にあるか検証するために、「あなたには、良さがありますか」の回答別に、「学校のきまりを守ろうと努力している」と「社会のマナーを守ろうとしている」についてどう答えたかをグラフにしてみると以下の図 2、図 3 のような結果になった。



この結果から考えると、次のようなことがいえる。

- ・自分に良さがあると考えている生徒ほど、学校のきまりを守ろうとしている。
  - ・自分に良さがあると考えている生徒ほど、社会のマナーを守るように努力している。
- つまり、自己肯定感が強い生徒ほど、規範意識も高くなると考えられる。

次に「集団への所属意識」の高さと「学校のきまりを守ろうとする意識」や「社会のマナーを守ろうとする意識」の高さにどのようなかかわりがあるか確かむために、「クラスは、楽しい場ですか」の回答別に「学校のきまりを守ろうと努力している」と「社会のマナーを守ろうとしている」についてどう答えたかをみると、学級を「とても楽しい場」あるいは「だいたい楽しい場」と考えている生徒 35 人は、全員守ろうとする意識が高かった。

記述式で回答した「守ろうと努力している理由」には、以下のようなものがあった。

- ① 自己の向上のため、あるいは社会集団の一人として向上するためと考えられるもの(17人)
  - ・今は、社会に出て恥ずかしくないように学ぶ時だから。
  - ・きまりを守れば、みんなが嫌な思いをしないで楽しく過ごせるから。
  - ・2年生の時だめだった自分を改善させ、自分自身を高めるため。など
- ② 守るのが当たり前のことととらえているもの(11人)
  - ・守らなければいけないものだから。
  - ・学校のきまりを守って悪いことは何もないと思うから。
  - ・普通に守っている。
- ③ 自己の利害関係からのもの(4人)
  - ・3年にとって大事な時で、高校に行くため。

- ・後々、自分に響いてくるから。
- ・叱られるから。

守ろうとする理由についても、向上心をもち、自律した考えを基にしたものであれば、将来も確かな規範意識につながると思われる。

また、「学校がとても楽しい」と答えたなかで「学校のきまりをあまり守るように努力していない」と答えた生徒3人の理由は、それぞれ「自分に負けているから」「めんどくさい」「してないからしてないでしょ」であった。この3人については、特に注意して今後の規範意識の変容を追っていきたい。

## (2) 「心のノート」活用

### ア 実践1

自己肯定感を高めるために、自己否定をする部分を自己肯定できる部分に変える考え方(リフレーミング)を伝える道徳の実践をした。

リフレーミングとは、ある枠組みで捉えられている物事の枠組みを外して、違う枠組みで見ることを指す。同じ物事でも、人によって見方や感じ方が異なり、ある角度で見たら長所になり、また短所にもなる。

この指導過程は、次のようである。

学 習 過 程	生 徒 の 反 応
<ol style="list-style-type: none"> <li>自分の「らしさ」について考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに自分が考える「らしさ」を考えて記入する。</li> <li>ワークシートを集め、名前を伏せて読まれた「らしさ」をだれのものか考える。</li> <li>マイナスイメージの「らしさ」は、自分が思っているより他人は分からないことを確認する。</li> </ul> </li> <li>心のノート P. 32 を見ながら、嫌だと思っている部分もよさに変えられることを伝える。</li> <li>変えたいところを考えて、心のノート P. 33 に「自分のこんなところを」に書く。</li> <li>「自分のこんなところを」を発表し、どのようにリフレーミングできるか全員で考え、意見を発表する。</li> <li>自分で「自分のこんなところを」について考え、「こうしたい」を書く。</li> <li>授業の感想を書く。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「几帳面」「良く考えるとふざけたことをしていることが多い」「むきになっちゃう」「自己中？」</li> <li>・自分が書いたものが読まれても、結局当てられなかったことを不思議がっていた。</li> <li>・心のノート P. 33</li> </ul> 

生徒からは、「あきらめが早い」ところを「すぐに気持ちを切り替える」というよいところにした  
いという意見や「むきになってしまう」ところを「何事も熱心に取り組める」というよいところにし  
たいというような意見が出された。

これにより自分の中の否定的な部分を減らすことから自己肯定感を高めるきっかけになったので  
はないだろうか。授業後の感想には、以下のようなものがあった。

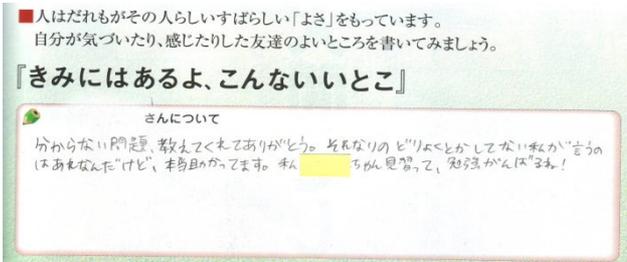
4 'よしこは変えられる。感想

僕も「〜らしいところ」とかよくあります。それは自分にとって嬉しい事も悪いことであ  
ります。やっぱり。短所を無くそうと思えばやっぱり難しいです。その短所が何  
か良いことに使えないか考えてみるとけっこう使えるものです。僕もバカな発言を  
してはいけないと思うけど。それで周囲が笑ってクラスが明るくなるのは僕も  
うれしいです。

今後、この考え方で自己肯定感を高められるように、時間をおいて「心のノート」のこのページを  
見る機会を設けていきたい。

イ 実践2

自己肯定感を高め、かつ学級への所属意識を高めるために「心のノート」とワークシートを使った実  
践を行った。その指導過程は、以下のようなものである。

学 習 過 程	生 徒 の 反 応
1 友達にしてもらって嬉しかったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めは恥ずかしがって数人しか意見が出なかったが、次第に小学校時代のころまで遡り、意見が出た。</li> </ul>
2 心のノート P.49 に友達の良さを記入し、相手に読んでもらう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に相手を考えて、記入する。</li> <li>・クラスにその相手がいる場合読んでもらう。だれにも書いてもらえないこともあるので、時間は短めにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲のよい子1人か2人を選び楽しそうに書いていた。それを読んだ生徒はとても嬉しそうだった。</li> </ul> 
3 教師の「友人に良さを認めてもらったことがやる気になって努力できた体験談」を話す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短い話だが真剣に聞いていた。</li> </ul>
4 全員で全員のよいところを伝え合えたら素晴らしいことを伝え、「良いところ発見シート」に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シートに自分の名前を書く。</li> <li>・席の次の人(次に書くことになる人)にシートを渡す。</li> <li>・回ってきたシートの名前を見て、そのクラスメイトの良さを1分で記入する。</li> <li>・教師の指示で一斉に次に回す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸惑った様子だったが歓声も上がった。</li> <li>・初めは時間がかかっているようだったが慣れてくると集中して取り組めた。</li> <li>・慣れてくると30秒で枠いっぱいを書く生徒もいた。</li> </ul>

5 全員に書いてもらった自分の良さを読む。	・うれしそうな顔をして集中してしばらく読んだ後、近くの生徒と「こんなことが書いてあった」「これお前が書いただろ」などいろいろ言葉を交わしていた。
6 教師の話聞く。	・良いところを全員が見ていてくれるという内容の話をする。

実際に行ってみると、集中力を切らすことなく、クラスメイトの良さを書くことができた。人の良さを探すということは、それだけで自分自身にも良い影響があるようである。ほとんどの子が集中して良い表情で書いていたことが印象的であった。

3年5組 1学期 良いところ発見シート	名前
落ちつきがある。マイペース。意外と努力家。読書好き。	
字がきれい	
字がす、こいきれい。おちついてる	
7-ル。字がキレてるのですごい。	
いつでも静かで、何でも知ってそうなところ。	
字がきれいで、本もよむのが大好きな人。	
けじめがついている人!!! 字がキレイなのを見た	
いつも冷静で、でも友達とばかり仲が良く、体がすごい。部活はバドミントンで活躍してる。	
常に冷静で部活めっちゃ熱心。字も上手い。優しい。	
字がすこくうまい。いつでも冷静な感じ。	
字がうまい、最近本読んでおかげで、よくしゃべりたくて楽しい。シュート外よく入る	
バスケットが上手い。字がきれい。マイペース。やさしい。	
バスケのボールテクニックがうまい。冷静に練習をみている。	

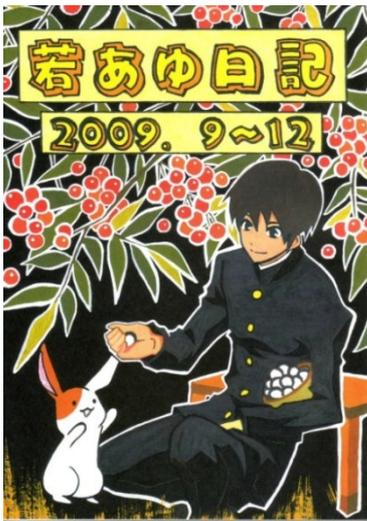
この日の日記には、以下のような文章が書かれていた。

「今日の6時間目に、『良いところ発見シート』を書きました。はじめは書けないかとも思いましたが、意外と良いところがどんどん出てきて、時間が足りないと思うようになりました。自分のシートが返ってきました。ピアノと勉強のことが多くて、みんなに認められているんだなとうれしくなりました。それだけじゃなく、意外なことも書いてあって、今の私は人にそういうふうに見られているんだと新しい自分の発見にもなりました。よいところ発見シートをもらった後、なんだかクラスの雰囲気が自然とよくなった気がしました。2学期も、3学期もあるのでどんどんクラスのみんなのよいところを見つけていきたいです」

この日の日記にクラスの半分以上の生徒が「良いところ発見シート」について書いてきており、その内容から自己肯定感が強くなったことを感じた。また、この活動後、欠席した給食当番の代わりを進んでしてあげた生徒に気付いて日記に書いてきたり、日直の忘れられていた仕事をしてあげていた生徒のことを教師に報告したりすることが多くなった。意識が人の良いところに向けられており、それを認めてくれる仲間がいる場所として、学級への所属意識も高まったのではないだろうか。

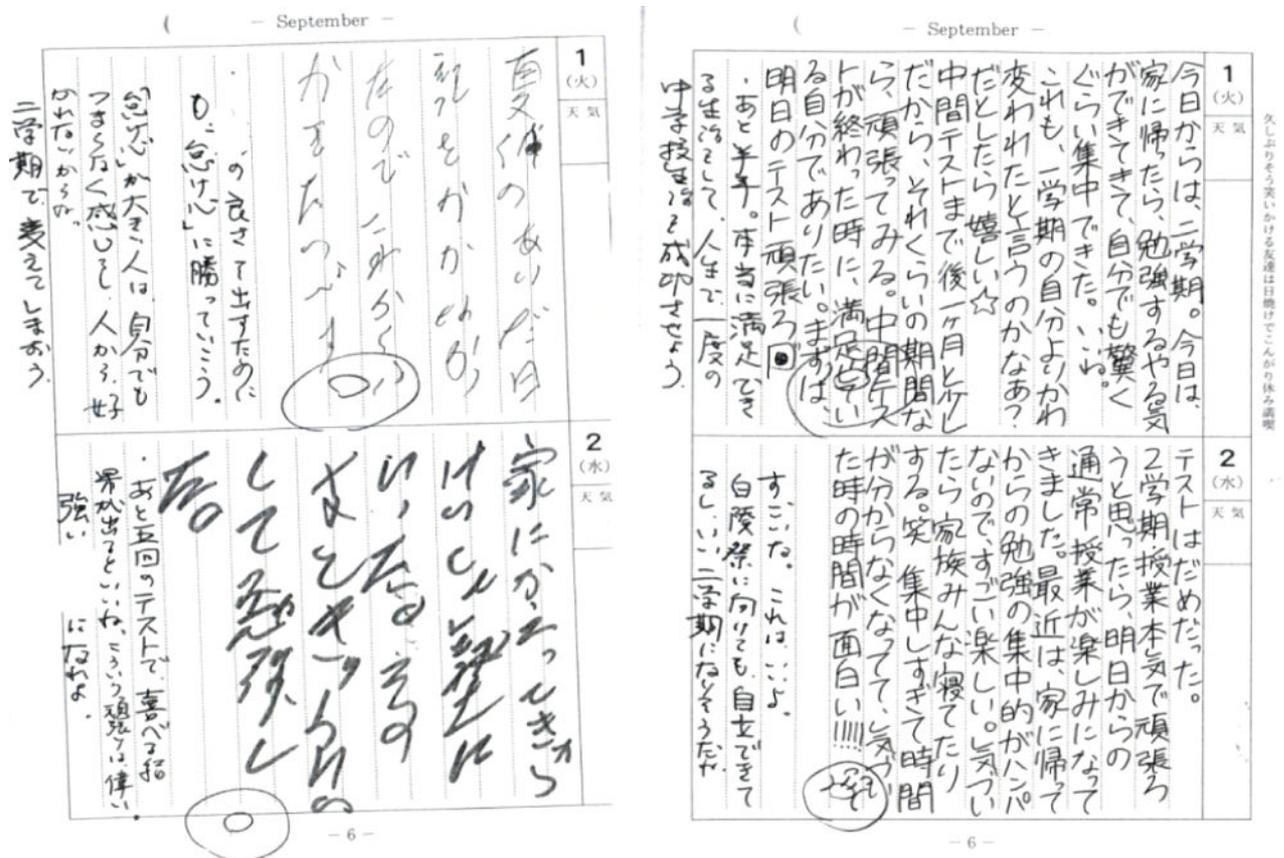
(3) 「自己肯定感」「集団への所属意識」の向上に向けた学級活動

ア 生徒の良さを認め自己肯定感に結び付ける日記指導



学年当初から、毎日全員の日記(知多地方には、若あゆ日記という日記帳があり、毎学期生徒全員に配布される)を読み、コメントを返すことを続けている。

学級全員の生徒と毎日必ず言葉のやり取りをすることができ、その時々一人一人の考えを知ることができる。その中で、生徒の良さ、良い考え方を認め、自己肯定感に結びつける言葉を書くように意識している。毎日続けることで、一人一人にあった考え方を伝えられ、日常の会話だけでは伝えられない生徒の良さも伝えられる。自分からなかなか教師に話しかけられない生徒も、日記帳の中で次第に心開き、心の葛藤を書くことができるようになる。



イ 集団の考えを共有し、所属意識を高める日記集(学級通信)

毎日良い日記を一つ選んで、それを教師が活字にし「日記集」として配布している。学級の生徒の考えと学級担任の考えを知りことで、考え方の共有につながっている。この日記集は、行事のたびに「皆から皆へ」のメッセージを載せて、言葉での「交流の場」としても活用している。集団への所属意識を高めたり、生徒同士のつながりを感じさせ学級の中での有用感を高めたりすることに役立っている。

6月10日 水曜日 曇りのち雨  
 今日DTACは、修学旅行のことでした。まだ、しおりの空いているところを書きました。まず、ホテルの部屋です。これは前に決めておきました。あと、ペンションの部屋長。同じ部屋の瑞恵ちゃんがやってくれました。頼んだらやってくれて、嬉しかったです。それから、写真の時の並び方です。女子も、男子も、みんなで声を出し合って、あっという間に決まりました。2年生のとぎだっただ、きつとバラバラにしゃべっているんじゃないかと思えます。3年生らしくなってきたなあと思って、嬉しくなりました。私も、みんなに負けないように頑張ろうと思えます。  
 自立に近づいてきているのかな。本当の意味で、自立したクラスになって、みんな喜んでほしいね。

6月11日 木曜日 曇り  
 今日、体育の先生が林間から帰ってきてから、初めての授業だった。幅跳びやと思っていたら、保健だった。でも、保健も面白かった。先生は、自分の体で飲酒、喫煙をすることでのくらしい影響があるのか試しているんだって。絶対、お酒飲むための言い訳だなあと思つた。成人したら、先生&先生のコンビニでお酒飲んでるところに参加してみたいなあ～(笑)。  
 よし、成人したらよんでください。おこぼ、多分。

6月12日 金曜日 曇り  
 今日、修学旅行事前指導でした。最初は、荷物検査とかだったのでよかったです。あとから、移動ばかりでした。移動した後、何か話すことがあればいいけど、無くて、すぐ元に戻れと言われたりして、疲れました。  
 疲れたけど、本番はしっかりしたいと思つています。  
 確かに、長くて疲れたね。でも、意識が高くなってきたことが分かり、私自身もとても楽しみになりました。

### 修学旅行

3日間の修学旅行。たった3日ですが、その価値は大きかったと思つています。  
 なぜなら、私は、より3年組を頼もしく思えたからです。  
 そうなると、いろいろ任せられるようになります。そして、自分たちの考えで動ける「自由」が増えます。その中で活動していくことは、「自立」につながります。  
 修学旅行で得た「じりつ」を遠慮することなく、普段の学校生活でどんどん出しててください。  
 間違ひなく、皆はまだまだ伸びます。



6月15日 月曜日 曇り  
 今日から修学旅行です。朝早いので起きられるか心配でしたが、無事起きられました。でも、全体としては、時間内に集まれず、残念でした。バス、電車どれに乗っても、皆と一緒に乗ったから最高でした。国会議事堂は、全く雰囲気違つて、「ここは、日本か?」と思つました。写真を撮る時に、伴野豊さんに「よろしく」と握手されたときは、びっくり!ディズニーランドは、全然アトラクションに乗らなかったけど、とても楽しかった。浦安ブライTONホテルは、超綺麗でした。このホテルは、また来たいです。全体的に「じりつ」できているなから、明日からできたらと思います。  
 修学旅行のことは、印象深く記憶に残つていくものです。きつと国会議事堂の二ニュースを見るたびに思い出さずじらうね。

6月16日 火曜日 曇り  
 今日、東京分散研修でした。電車に乗っていた時、始めに思ったのが、人が多かという事です。愛知で朝の通勤ぐらゐの時間に乗ったことはあまりないけど、ここでも多くなることはほとんどないと思つました。分散研修が終わったら、伊豆へ行きました。泊まったペンションのオーナーさんがすごくいい人でした。料理もとても美味しかったです。  
 愛知とは違う場所だからこそわかることも多いよね。それだけでも、東京へ行った価値があるね。

白陵祭 皆から皆へ  
 白陵祭成功させて、みんなでも最高な思い出つくりろー!最後の白陵祭、嫌でも思い出に残すぞー(笑)。頑張つて成功させよう。時間を有効に使つて、みんなでも成功させよう。精一杯の力を合わせて、一生心に残るような白陵祭にしよう!!今年で最後の白陵祭、今までの準備や練習を思い出して、みんなでも最高な白陵祭にしよう!!中学校最後の白陵祭をみんなでも成功させたい。ポジティブに笑つて楽しく明るく白陵祭を頑張ろう!!生涯最後の白陵祭、クラス一丸となって盛り上げよう。成功して高い思い出をつくりよう。白陵祭、絶対成功させよう。頑張ろう。とにかく頑張りました。成功してみんなでも最高な白陵祭にしよう。頑張ろう!!全員で協力して最高のものにしよう!!体育祭で優勝して一生残る思い出にしよう。クラス一丸となって頑張ろう!!中学校生活最後の白陵祭、悔いの残らないように参加しよう。思い出に残る白陵祭にしよう。最後の白陵祭、思い出に残そう。3の5だいたいだーいすき!!!こんないいクラスに恵まれて本当に幸せです。みんなでも最高な思い出に残る白陵祭にしよう!!3の5 LOVE!!最後まで力を合わせて、最高の白陵祭に。中学校で最後の白陵祭は、全員が笑顔で終わるように頑張ります。クラス一丸となって頑張ろう!!今年にせまった白陵祭。まだ終わっていないけど、クラス一丸となって、体育の部、文化の部も二つともクラスとして一番になろう。このクラスなら絶対負けません。皆で力を合わせて頑張ろう!!文化の部では、自分たちクラスで造り上げた作品をみんなに楽しんでもらえるように頑張ろう!!体育の部では、クラスとチームが一丸となって、協力して優勝できるように頑張ろう!!白陵祭を成功させよう。終わつた時によかったと思える白陵祭にしよう。3年間で一番良い白陵祭になるように頑張ります。白陵祭を全員で努力して成功させよう!今年で最後の白陵祭なので、皆で成功させて、皆が最高の思い出になるようにしましよ。思い出に残る最後の白陵祭になるように頑張ろう!!みんなでもいい笑顔をつくりね☆!!!POLISH MY SELF!!

私にとつての白陵祭は、まだ何度かあるでしょう。しかし、君たちとの白陵祭は、これが最後。本当に、しっかりと心に焼き付けておきたいです。伝説になるクラスの伝説になる白陵祭にしよう!  
 10月19日 月曜日 晴れ  
 今日は、とうとう学級閉鎖が起きてしまいました。しかも、1組、4組、7組と3クラスもです。5組が危なかったけど、なんとか復活できたので、「大丈夫かな?」と思つていた矢先でした。今回の3クラスは、学級閉鎖がなくなつてしまつたので、すこしかわいそうでした。最近では、高校生の人が新型インフルエンザで亡くなつていて、もういつ自分が同じ状態になつてもおかしくありません。今まで頑張つて準備したものが無駄にならないように、注意していきたいなと思つています。

できるところを全て、体調管理をしていこう。白陵祭成功の前に、新たな大きな壁ができてしまつたけど、しっかりと乗り越えて何年後かに皆で集まつたときでも、良い思い出をたくさん話せるような白陵祭にしたいね。  
 学級閉鎖。校長先生が出てきた瞬間、ゾクツとした。最後の白陵祭。5組もそうならないように、みんなでも防ぎたい。

嫌な気持ちになつていた時、いいこともあった。会議室の集まりに行つたら、いつもよりも何倍も残つて作業している人が多かつた。しかも、全員最終下校時刻を守つていた。こういう雰囲気を守つてくつた。  
 こんな小説の一節を思い出しました。  
 人間、何かをしようとする必ずそれを邪魔する何かがある。不思議なことそれはその人にとつて一番いいところをついてくる。ほとんどの人間はそれで何かをやめてしまふ。けれど「なにこそ負けるか、やつてやる」とその邪魔にもめげずに続けているとこれこれ不思議なことに邪魔するものは、まるで何もなかったように消えてしまふ。そればかりか 自分の助けになってくれる。努力にはこんな力のことである  
 今自分にとつて、邪魔するものはなんだろう。諦めずにできることを全てやつていこう。

#### ウ 自己肯定感を高める保護者の言葉

家庭に毎日の学級の様子を伝える手段として日記集をファイリングしたものを持ち帰り、保護者にも読んでもらっている。時には、それを読んだ保護者からの意見も日記集に載せ、家庭と学校との考え方を共有する手段としても活用している。

〈保護者から(昨年度のもの)〉

合唱コンクール見に行きました。A君の指揮がすごいよと言っていたので、楽しみにしていましたが、よかったです。うちの子が家で「Aかっこいい」と言っていました。今日の『疾風怒濤』でも、素晴らしいって書いてありましたが、クラスの子がそう思えるのが私はとても大切だと思いました。よかったです。1番でした。

## 5 今後の課題

学級において、「自己肯定感」と「集団への所属意識」は、確実に変化してきているように思う。アンケートなどを行い、これからの変化を追い、規範意識が高められているか検証していきたいと考えている。

また、「自己肯定感」と「集団への所属意識」以外にも、学校生活の中で大きく変えられることのできる「向上心」に着目し、その高まりと規範意識とのかかわりもつかんでいきたいと考えている。

さらに、道徳の授業などでルールやマナーの内容を取り上げ、道徳的判断力や実践意欲を高められる授業も行いたい。「心のノート」にある「法やきまりを守る気持ちよい社会を」「つながり合う社会は住みよい」「不正を許さぬ社会をつくるために」などのページを活用して、中学校卒業後の自分の生き方を考えさせながら規範意識向上につなげたい。



写真3 みんな笑顔